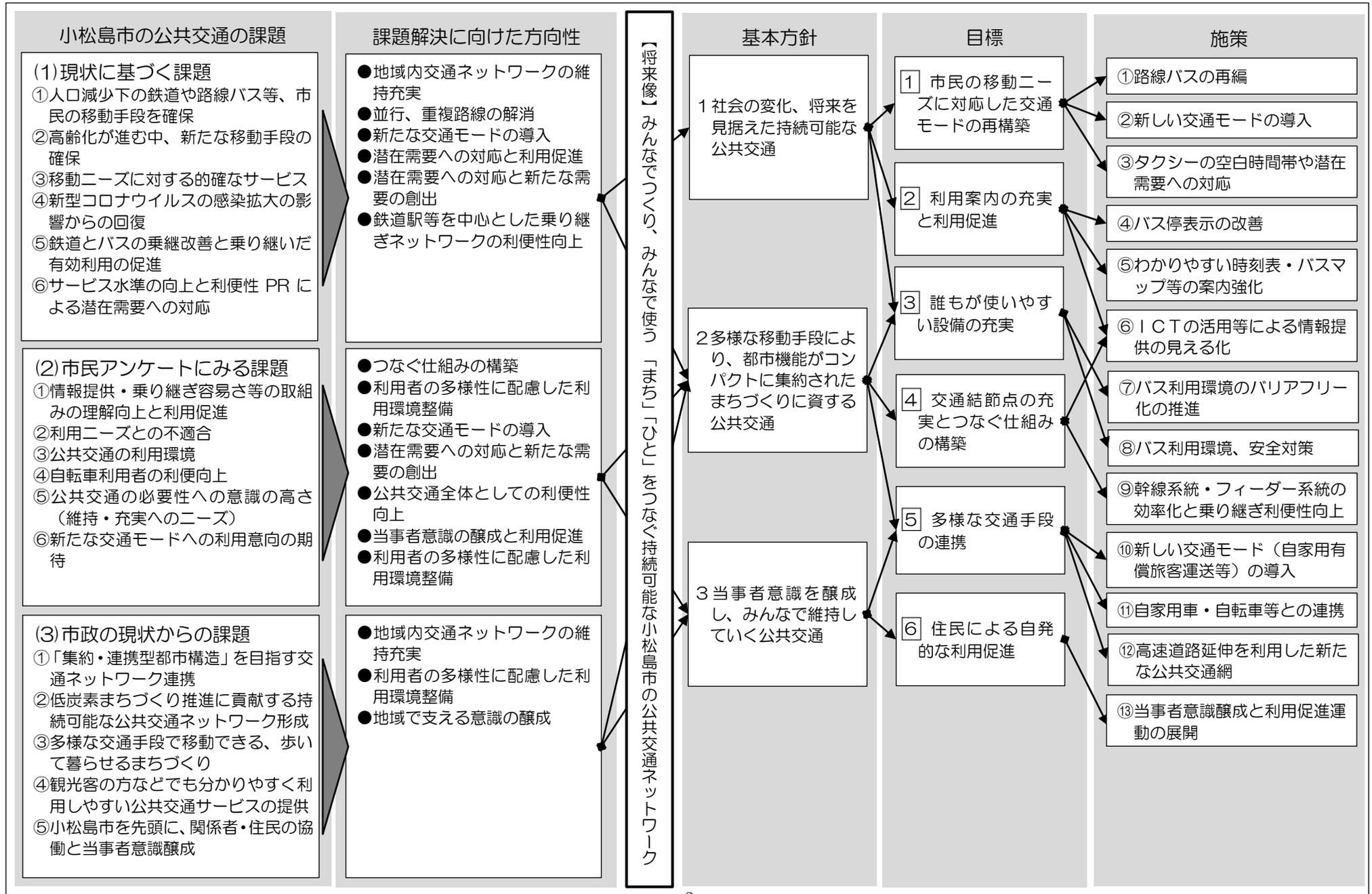


議題 2 小松島市地域公共交通計画で位置づけた施策について

小松島市地域公共交通計画体系図



## 目標を達成するために行う施策

目標	施策	令和5年度中の取組
1. 市民の移動ニーズに対応した交通モードの再構築	①路線バスの再編	【議題3】 令和5年10月1日に向けた路線再編及びダイヤの変更
	②新しい交通モードの導入	【議題4】 令和5年度中のデマンド交通の実証実験
	③タクシーの空白時間帯や潜在需要への対応	令和5年4月1日から営業区域を見直しており、次年度以降継続するかの検討
2. 利用案内の充実と利用促進	④バス停の表示の改善	路線の再編に伴い、バス停名を実態に沿うように修正 スマートバス停の追加検討
	⑤わかりやすい時刻表・バスマップ等の案内強化	路線の再編に伴う「小松島市公共交通MAP」の改訂
	⑥ICTの活用などによる情報提供の見える化	広報「こまつしま」及び市ホームページによる継続的な利用促進の周知
3. 誰もが使いやすい設備の充実	⑦バス利用環境のバリアフリー化の推進	停留所周辺の段差や路面状態の確認
	⑧バス利用環境、安全対策	危険バス停の解消
4. 交通結節点の充実とつなぐ仕組みの構築	⑥ICTの活用などによる情報提供の見える化【再掲】	施策⑥を参照
	⑨幹線系統・フィーダー系統の効率化と乗り継ぎ利便性向上	南小松島駅前トイレの設計
5. 多様な交通手段の連携	⑩新しい交通モード（自家用有償旅客運送等）の導入	施策②を参照 自家用有償については制度の情報収集と可能性の模索
	⑪自家用車・自転車等との連携	路線変更に伴うパークアンドライドの検討
	⑫高速道路延伸を利用した新たな公共交通網	四国横断自動車道の整備進捗について、担当課との情報共有と、開通を見越した将来的な検討
6. 住民による自発的な利用促進	⑬当事者意識醸成と利用促進運動の展開	バスの乗り方教室など、次年度以降の活動方針の検討

## 【参考】 評価スケジュールと評価項目

目標	施策	評価の項目	指標数値
1. 市民の移動ニーズに対応した交通モードの再構築	①路線バスの再編	○住民等の公共交通の利用者数 ○公的資金が投入されている公共交通事業の収支 ○公共交通への公的資金投入額 ○公共交通空白地域の解消数	○利用者数 平日：341人/日（令和3年度） →470人/日（令和9年度） 休日：213人/日（令和3年度） →380人/日（令和9年度） （コロナ前の令和元年度の利用者数を将来人口の減少率より想定） ※協定路線+新しい交通モード ○小松島市の財政負担額（収支額） 76,260千円（令和3年度） ※協定路線運行経費補助 →76,260千円（令和9年度） ※協定路線+新しい交通モードの運行経費補助 ○公共交通空白地域の箇所数 4箇所（令和3年度） →0箇所（令和9年度）
	②新しい交通モードの導入		
	③タクシーの空白時間帯や潜在需要への対応		
2. 利用案内の充実	④バス停の表示の改善	○スマートバス停設置数	1箇所（令和3年度） →3箇所（令和9年度）
	⑤わかりやすい時刻表・バスマップ発行と案内強化		
	⑥ICTの活用などによる情報提供の充実		
3. 誰もが使いやすい設備の充実	⑦バス利用環境のバリアフリー化の推進	○バリアフリー車両導入率 ○危険バス停解消箇所数	○バリアフリー車両導入率 100%（令和3年度） →100%を維持（令和9年度） ○危険バス停の箇所数 2箇所（令和3年度） →0箇所（令和9年度）
	⑧バス利用環境、安全対策		
4. 交通結節点の充実とつなぐ仕組みの構築	⑥ICTの活用などによる情報提供の充実	目標「2. 利用案内の充実と利用促進」欄 参照	
	⑨幹線系統・フィーダー系統の効率化と乗り継ぎ利便性の向上	○接続するフィーダー系統との平均待ち時間	18.6分（令和3年度） ※南小松島駅のJR・幹線路線⇄協定路線の平日7・8時台の上下平均待ち時間 →12分（令和9年度）
5. 多様な交通手段の連携	⑩新しい交通モード（自家用有償旅客運送等）の導入	○待合所の設置箇所数	0箇所（令和3年度） →1箇所（令和9年度）
	⑪自家用車・自転車等との連携		
	⑫高速道路延伸を利用した新たな公共交通網		
6. 住民による自発的な利用促進	⑬当事者意識醸成と利用促進運動の展開	○小学校再編に向けた公共交通乗り方教室の実施回数	0回/年（令和3年度） →8回/年（令和9年度）（市内各小学校）